

朝の礼拝

聖書 創世記11章1-9節 (旧約聖書12頁)

1 世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。2 東の方から移動してきた人々は、シニアルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。

3 彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを、しっくい代わりにアスファルトを用いた。4 彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。

5 主は降って来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、6 言われた。

「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。7 我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」

8 主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らはこの町の建設をやめた。9 こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を混乱 (バラル) させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである。

バベルの塔

北アメリカ大陸の先住民ネイティブ・アメリカンの人々は神様が高いところにおられると信じて、山に登り礼拝をしていました。緑が豊かで、国土の7割が山岳地帯の日本も、古代の神話時代から神様は森や山におられると信じてきました。

古代、今の中東イラクという国にメソポタミア文明がありました。彼らも神様は高い天におられると信じていました。しかし彼らは石の代わりにレンガを、しっくい（ねんど）の代わりにアスファルトを造り、天に届くような高い塔を建て、世界を支配しようと考えました。そこで神様は彼らの言葉を混乱させ、世界に散らされました。

今、世界には7,099の言語があるとも言われています。想像もつかないほどの多様な生活、文化、歴史に恵まれています。そしてそれ以上に多様な生物が棲み、自然の循環に恵まれた地球に共存しています。しかし、今、世界に広がった感染症で、人間のおごりに気づき始めている人々がいます。

今、私たちは話す言葉が違って、生活、文化、歴史は違って、互いに愛し合い、神様が創造された地球を愛する生活に立ち返る時にいるのではないのでしょうか。そのためにイエス様が私たちのところへ来られ、神様の愛と隣人を自分のように愛するように教えて下さったのです。

（しばらく黙祷しましょう）

祈禱 祈りましょう

わたしたちを愛し、励まされる主よ。あなたのお恵みと導きの下、喜びと感謝のうちに体育祭を終えることが出来ました。また公式戦、大会、練習、合宿もままならなかった部活動も活気を取り戻してきました。これから中間テスト、英和祭と続きますが、まだまだ感染症の不安と心配は尽きません。どうか互いに感染予防に努めつつ、「愛と奉仕」の精神で学び合い、喜びと感謝の時を迎えられますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、過ごさせて下さい。主イエス・キリストによってお願いします。アーメン